● いい映画をこのまちで　このまちのひとと　<ここ de シネマ>　第１５回

死刑囚6人との対話が始まる。

知らないから怖い　だから　知りたいと思う。あなたと出会うために。

●お目の不自由な方へ 当日正午までに連絡くだされば開場15分前に相模大野駅中央改札口から誘導します。●お耳の不自由な方へ 受付にて手話と筆談でお迎えします。

●字幕・音声ガイド付きバリアフリー上映　視覚・聴覚ご不自由なお知り合いもお誘いください。

●チケットは、ホール窓口他ぴあで購入できます。

後援●相模原市／相模原市教育委員会／社会福祉法人相模原市社会福祉協議会

2020年
3月13日(金)

昼の部　PM2：45～（開場 PM2：00）
夜の部　PM7：00～（開場 PM6：30）

入場料 1000円

会場　相模女子大学グリーンホール 多目的ホール
（立体駐車場を経由ください。右図参照）
相模原市南区 相模大野 4-4-1
相模大野駅下車　徒歩 6 分

※中学生以下・障がい者の付添いの方 無料

主催●NPO 法人ここずっと　☎042-745-0676　e-mail：info@cocozutto.jp

チケットぴあ pia.jp/t 0570-02-9999　Pコード：550937

生きるとは何か。罪とは何か。——

教誨室の会話劇に垣間見る　ひととの出会い 生きる意味

教誨師（きょうかいし）とは—

刑務所や少年院等の矯正施設において被収容者に対して道徳心の育成、こころの救済につとめ、彼らが改心できるように導く人。日本では、諸宗教の聖職者がボランティアでその任にあたる。
被収容者の宗教上の希望に応じ、所属する宗教・宗派の教義に基づいた宗教教誨活動（宗教行事、礼拝、面接、講話等）を行うが、平成29年末現在の矯正施設における教誨師の人数は約2,000名。うち仏教系が約66%、キリスト教系が約14%、神道系が約11%、諸教が約8%となっている。

©「教誨師」members

世界各国で次々と廃止が決まる中、いまだ存続する我が国の死刑制度。この極めて特異なシステムの下で、ひたすら対話を繰り返す死刑囚とひとりの男＝教誨師。

このまちに暮らすわたしたちは、死刑囚の言葉にどうしても「津久井やまゆり園事件」を連想するかもしれません。あの怖ろしい、理解しがたく悲惨な事件を。「教誨師」という特別な位置から死刑囚に対面する本編は、評論家やコメンテーターがさまざまに分析、批評する言葉より、市民が事件や犯罪者にどう対面できるかを示唆しているのではないでしょうか？ 向き合うことで、あなたを知りたい——「知らないから怖い」から、「怖さ」を超えて向き合い、「生きる」を考えてみませんか。

だれとでも楽しめる
バリアフリー上映で
イヤホン付きFMラジオをお持ちください。
ラジオの貸出しもいたします。
（先着20台まで）

本作には、オフィシャルにて字幕がついています。

音声ガイドは、自主制作市民グループ〈うさぎのみみ〉さんと〈バリアフリー映画鑑賞推進団体・シティライツ〉さんと連携、制作したものを、FM電波送信によって付与いたします。

大杉漣、最初のプロデュース作にして最後の主演作

主演の佐伯に大杉漣。その膨大なセリフ量とユニークな内容ゆえ、「役者にケンカを売ってるのかと思った」と評した脚本を全身全霊賭けて体現、圧巻の存在感を見せる。対する死刑囚役に光石研、烏丸せつこ、古舘寛治といったベテラン俳優や映画初出演となる劇団"柿喰う客"の玉置玲央らが扮し、限りある命を持つ者同士、激しい火花を散らす。監督、脚本は死刑に立ち会う刑務官を描いた『休暇』(08)の脚本を手がけた佐向大。

コミュニティ・シアター

〈ここdeシネマ〉はユニバーサル・デザインを追求します。

この機会に、障がいの有無なく字幕・ガイド付き鑑賞を体験ください。
みなさんのお声のもとに、より見やすくみんなに優しい上映会づくりにチャレンジします。
※ユニバーサル・デザインの模索をつづけています。どうぞ、その手とお知恵をお貸しください！

次回〈ここdeシネマ〉
第16回は
2020年 8月28日（金）
だよ～！

開催カンパ振込口座
横浜銀行相模大野支店
普通 6041388
名義 NPO法人ここずっと

お問合せはこちらへ——

主催 NPO法人ここずっと
〒252-0303 相模原市南区相模大野9丁目6番18号
TEL 042-745-0676 FAX 042-742-0447
メール info@cocozutto.jp

後援：相模原市　相模原市教育委員会　社会福祉法人相模原市社会福祉協議会
※ここdeシネマ開催事業は、今年度のさがみはら市民協働ファンド・ゆめの芽の助成事業です。